

## 市指定文化財（天然記念物） 平成29年12月26日指定

### 桜井寺のシロバイ自生地

面積：8,576㎡

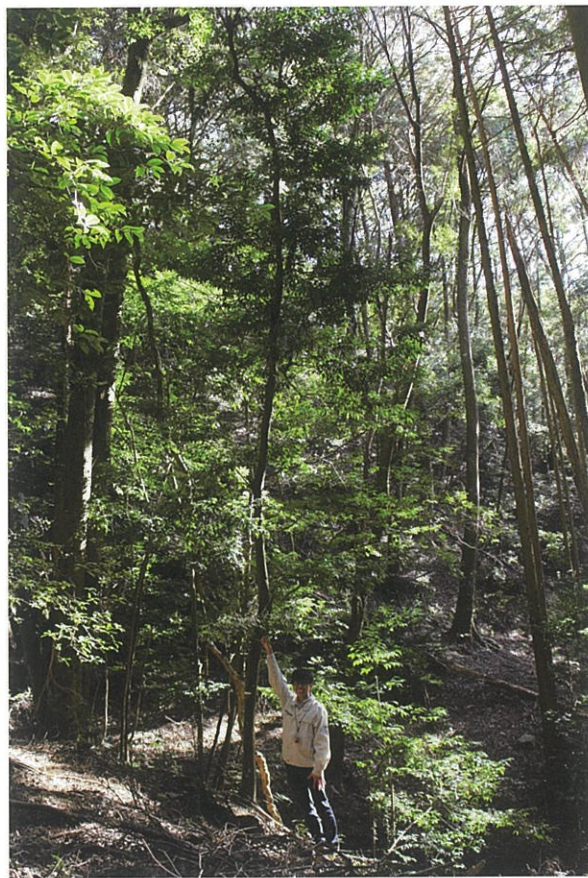
所在地：岡崎市桜井寺町字本郷51番、52番、  
53番1、66番1のそれぞれの一部

所有者：宗教法人 桜井寺

シロバイは、ハイノキ科に属する常緑性の小高木です。

本種は、国内では本州（愛知県以西）、四国、九州と、西日本を中心に分布し、世界では、日本、台湾、中国大陸南部に分布しており、湿った温暖な気候を好みます。本種自体は、全国的にみれば西日本を中心に相当数の個体があり、特別に珍しい種ではありませんが、愛知県内では岡崎市桜井寺町の桜井寺北側のシイを主とする常緑広葉樹林内の沢筋及び沢沿いの斜面に生育するのみとなっています。国内の自生の分布では、この自生地が分布の東限にあたりと考えられ、植物地理学上注目されており、学術的に重要です。

現在の樹勢は良く、幼木も多く更新が早いため、すぐにこの自生地内で絶滅する可能性は低いと考えられますが、環境の変化によっては自生地内での絶滅が危惧されています。そのため、この自生地を天然記念物に指定すると同時に、本種は岡崎市自然環境保全条例（平成20年条例第22号）に基づき、岡崎市指定希少野生動植物種に指定されました。



シロバイの樹形

樹高は7～8mになり、枝は細く暗灰褐色をしています。



シロバイの花

花期は8～10月で、直径約6mmの白色の花を咲かせます。花序（花の配列状態）は、上部の葉腋（葉と茎が接している部分）から出て、穂状で長さ1～3cm、花は無柄で花序の基部からつきます。



シロバイの実

果実は長さ5～6mmの倒卵状球形で、黒く熟します。



シロバイの葉

葉は互生し、長さ2～4mmの柄があり、葉身は披針形～卵状披針形で長さ4～6cm、幅1.5～3cm、両端は尖り、辺縁にはごく浅い鋸葉があります。